

### 3. FDプログラムの開発

#### 1) 概要

アクティブ・ラーニングを普及させるための効果的なFDプログラムを開発するため、本年度は、「Learning, Education, Development (LED) カフェ」と題して、自由な意見交換を基調としたFDを試行した。以下では、その背景、実施方法、ならびに成果の報告を行う。

#### 2) 背景

アクティブ・ラーニングの普及という実質的な成果につなげるためには、しかし、単なるセミナーではないワークショップ型のFDプログラムが有効とされる。しかしワークショップ型のプログラムは、担当部局にとっても参加する教員にとって負担感が大きく、また参加者数や効果が頭打ちとなるという問題も抱えている。

そこで、これらの問題を解決するため、持続可能かつ気楽に参加できるFDプログラムを開発したいと考えた。開発にあたっては、科学コミュニケーションの分野で注目を集めている「サイエンスカフェ」にヒントを得て、参加者の自由な意見交換を基調とする新しいタイプのFDプログラムをめざした。

#### 3) 実施方法

LED カフェは毎回、60分を基本として実施した。実施にあたっては、総合教育センター教育改革推進部門の教員が話題提供者となつて、10分程度の話題提供を行った。この話題提供を

回数	実施日	テーマ
第1回	9/29	学びを促すディスカッション
第2回	10/27	もっと学びを促すディスカッション
第3回	11/24	講義形式の授業で学生を引き付ける
第4回	1/26	大学教育の未来を考える
第5回	2/23 (予定)	事例に学ぶアクティブ・ラーニング (仮)

踏まえて、その後の約50分間、参加者間の自由な意見交換を行うようにした。各回の話題提供のテーマは、表に示す。

本プログラムの実施にあたってモデルとしたサイエンスカフェにおいては、意見交換しやすい、和やかな雰囲気づくりが鍵とも言われている。本プログラムにおいても、徳島大学附属図書館本館に設置されている飲食可能スペースの「カフェテリア」を活用し、簡単な菓子や飲み物を参加者が持ち寄る仕組みとすることで、意見交換しやすい「カフェ」空間の創出をめざした。また、参加者を確保するため、インターネット上のグループウェア・サービスを活用した広報活動を行った。

#### 4) 成果と課題

当初のねらい通り、実際の授業者の立場からの活発な意見交換を、和やかな雰囲気の中で行うことができ、プログラムは一定の成果を収めた。普段話題に上がることの少ない教育について、

改めて話し合う場を創出することができたと言える(写真は、第4回LEDカフェの様子)。

しかし、回を重ねるにつれて、参加者が固定化する傾向が見られたこと、また、第1回から第3回まで、個別の授業実践に関わる話題提供を繰り返し行ったため同じような議論に収束する場面が見られたことが、本プログラムの問題点として明らかになった。本プログラムを将来にわたって継続的に実施し、アクティブ・ラーニングの本格的な普及につな



げるためには、同じような議論が繰り返されることを防ぐための話題の選定や、参加者の輪をさらに大きく広げるための広報の工夫が必要になると考えられる。

